

夕 & Eye

中部 プラザ

名古屋市の旧東海道近くにある六畳ほどの小さな事務所、民間による有人宇宙機の開発が進んでいる。空へのおこがれを膨らませ、大手機械メーカーから独立した緒川修治さん(38)は「PDエアロスペース」を設立し、設計図面と向き合う。有人宇宙機の開発は国内では同社だけという。緒川さんは「誰でも宇宙に行けるようにしたい」と、二〇一四年宇宙の旅を指す。九月中旬、宇宙機の六分の一、全長一・五メートルの小型モデル機がエンジンの爆発音を響かせながら約四十秒間の初フライトを遂げた。緒川さんは「本当は一気に機体を急上昇させる予定だった。エンジンの調子がいまひとつで、成功とは

名古屋発、宇宙の旅

民間有人機を 38歳技術者の挑戦

1/6デモ機、40秒間飛行

民間で有人宇宙機開発に臨む緒川さん(名古屋市長区)



まだ言えない」と苦笑いするが、宇宙への第一歩が踏み出された瞬間だった。

緒川さんは幼いころから航

空機のパイロットを目指していたが、二十四歳の年齢制限までに認定試験に合格できず、大手機械メーカーで戦闘機の開発に取り組んだ。その後、大学院へ進学して航空宇宙工学を学ぶと、別の大手機械メーカーで技術者としてエンジンなどの開発に携わった。

転機は〇四年十月にやってきた。米国のベンチャー企業が民間による有人宇宙飛行を成功。英ヴァージン・グループと提携し、宇宙旅行の商用化を目指して動き始めた。ニュースを見るうちに、いつしか夢は大空を突き抜けて宇宙

まで飛んでいた。

「ベンチャーで宇宙事業をやると一念発起して退社し、昨年五月、PDエアロスペースを立ち上げた。スタッフは緒川社長のほか、大手機械メーカーの技術者ら約十五人がボランティアとして参加する。

構想する宇宙機は超音速旅客機コンコルドのような形状で、パイロットを含めて五人乗り。全長八・八メートル、重さは七トン。飛行場の滑走路から飛び立ち、一気に高度百メートルまで到達して、宇宙空間を約三分間飛行する。昨年十一月、名古屋市内で開かれたビジネスコンテスト「N11グランプリ」では宇宙事業の計画を披露。見事に優勝し、注目を集めた。

大手から独立、2014年実現めざす

開発の肝は、簡素な機体だが、爆発的なエネルギーを得られるという「パルスジェットエンジン」。宇宙機での採用はこれまでになく、緒川さんが改良を重ねる。

テスト飛行のデモ機には小型のパルスジェットエンジンが二つ積まれていたが、片側しか機能しなかった。「まだまだ改良が必要」と緒川さんは、仲間とともに実現に向けて進んでいく。

目標の二四年まであと六年。「私のような変わった人間が変わったことをしないと時代は変わらない」と話す。ただ、見積もった総事業費は約九十億円。政府からの助成金やスポンサーを募っていく計画だが、まだまだ手は届かない。それでも緒川さんは「子供でも青い地球を見られるようにするのが最終目標」と夢を追う。

(名古屋支社 筒井恒)